



山形県青年の家より隔月発行でお知らせしています

山 青 の 風



12月号

発行日 令和7年12月1日
発行 山形県青年の家研修課
〒994-0032 天童市小路1-7-8
TEL 023-654-4545 FAX023-652-2007

主催事業 「青少年ボランティアセミナー」

令和7年10月19日（日）、山形県青年の家で「青少年ボランティアセミナー」を開催しました。県内の中高生を中心に大学生など約35名が参加し、アイスブレイキング、ボランティアの基礎学習、献血に関する講義、体験談&広報グッズ作りなどを通してボランティアについて学び、交流しました。☆講義「命をつなぐボランティア『献血』について学ぼう」では、山形県赤十字血液センターの保科美有氏を講師に迎え、献血の必要性や血液の使われ方、実際の現場での話などを伺いました。若い参加者にも伝わる実例や映像が好評で、「具体的に知れてよかった」「高校生になったら献血に行きたくなった」という感想がありました。☆体験談・ボランティア実践活動「受け手の思いを聞いて、広報グッズを作ってあなたの優しさを身近な人に届けよう」では、北村山高校の佐藤真由美先生から「輸血を受けた人の思い」などを聞いた後、血液センターの保科さん指導の下、参加者たちは献血啓発の広報グッズを制作しました。作ったグッズは家族や友人に渡して啓発に使う予定です。参加者は楽しみながら、伝える工夫や言葉の選び方を学びました。



主催事業 「ボランティアフェスタ2025」

令和7年10月26日（日）、山形県青年の家で「ボランティアフェスタ2025」を開催しました。県内の高校生を中心に大学生や教育関係者など24名が参加し、講話やワークショップ、交流を通して「明日のボランティア」を考える一日となりました。☆講話「ボランティア活動の先に広がる世界を想って」では、秋田大学 教育文化学部 非常勤講師の皆川雅仁さん(右上)をお招きし、貴重なお話をいただきました。皆川さんの実体験や「積み重ね」の大切さを語る話に、参加者は自分の活動と重ねて聴き入っていました。☆ワークショップ1「芋煮会交流」(下中)では、定番の芋煮会スタイルで各班毎の芋煮鍋を囲みながら交流しました。味付けを班で協力して進め、自然な対話の中で距離がぐっと縮まりました。食事を共にする体験が、初対面の緊張をほぐす良いきっかけになったようです。☆ワークショップ2の「明日のボランティアを創造しよう」では、グループに分かれ「明日のボランティア」をテーマに議論と実践発表を実施。山形県教育局教育政策課の菅谷内敦さん(右中)を講師・進行役にお迎えし、山形県が目指す教育の在り方『第7次山形県教育振興計画』を踏まえ、ボランティア活動の意義と在り方について多様な意見交換を行いました。ワークショップで出たアイデアは今後の取り組みにつながる提案が多く、参加者同士の刺激にもなりました。トークミーティングでは、学校やサークル、地域で実際に活動している人の視点が共有され、次にやってみたい具体案が次々と生まれていました。(右下)



nicoこえ 「社会ボランティア賞」

11月21日に国際ソロプチミスト山形のクラブ賞贈呈式が行われ、県青年の家コーディネートボランティアサークル「nicoこえ」が社会ボランティア賞を受賞しました。nicoこえは、県内の中高生らが中心となり、小児がん患者の支援につなげる「山形 Make Lemonadeプロジェクト」などのボランティア活動を県内の様々なイベント会場で勢力的に展開していることが評価されました。笹原会長（左）から同サークルに表彰状と支援金が手渡されました。同サークルを代表し山形二中3年の天野菜菜さん（右）が「青少年の明るく元気な活動を通して、笑顔あふれる山形づくりに貢献したい」とあいさつしました。



～Global Gold September Campaign～

今年9月は「世界小児がん啓発月間」でした。各地で名所のゴールドライトアップや金色のアクセサリ着用などを通じて、小児がんで闘う子どもたちを応援するムーブメントが展開されました。山形県では、山形大学医学部小児科の呼びかけを受け、YYボランティアサークルの一つである「山形 Make Lemonade プロジェクト実行委員会（以下 YMLP実行委員会）」が協力し、9月9日に山形市の文翔館をゴールドにライトアップしました。数日後には山形大学医学部附属病院もゴールドに染まり、地域全体で啓発の輪が広がりました。



主催事業 「アートでわいわい」

10月15日に、若者自立支援体験活動2「アートでわいわい」が開催されました。天童アートプロジェクトの城山萌々さん(下左)と早坂美紅さんを講師に迎え「重ねる版画」に挑戦しました。小学校中学年から大人まで幅広い年齢の参加者(23名)がありました。講師の先生方や社会教育実習生からのサポートもあり、全員が作品をつくり上げることができました。版を作る作業、刷る作業など苦労する姿もありましたが、最後まで楽しみながら作品づくりに励む姿が印象的でした。



主催事業 「親子deアート」

11月16日に、家庭教育支援事業2「親子deアート」が開催されました。東北芸術工科大学准教授の石沢恵理氏の監修の下、同大学3年の金澤愛理さん(下中)と森谷佑衣さん(下右)が講師となり、「くねくねツリーづくり」に挑戦した。この日は、親子5組の10名が参加しました。参加者の声として「子どもが自由に考え、大人の発想にないアイデアでツリーを作る姿が見られて楽しかった」「親子で協働して作品を仕上げることができ、夢中になった」などが寄せられました。親子でじっくり制作に取り組むことで親子の絆が深まり、満足して帰る参加者が多かったようです。



<<10・11月のご利用ありがとうございました>>

【宿泊】⇒

- ・学校法人 北越高等学校
- ・TAMAYAMA CLUB U15 (バスケットボール)
- ・やまがたの自然の魅力！満喫プロジェクト

【日帰り】

- ・リベルタサッカースクール



- ・天Jソフトテニス ・1st. Rev. BC (バスケットボール) ・HOOP is LIFE (バスケットボール)
- ・天童市バドミントンスポーツ少年団 ・神町バドミントン愛好会 ・山口バドミントンスポーツ少年団 ・ファーストバド
- ・チーム ワタナベ (バドミントン) ・東根バレーボールスポーツ少年団 ・さくらバレー同好会 ・工泳会
- ・川井ファミリー (バレーボール) ・山形県総合学科高等学校発表交流会 ・ボランティアサークル「nicoこえ」
- ・東桜かるた練習会 ・放課後等デイサービスハートテラス ・放課後等デイサービスつぼみ ・山形ビルサービス
- ・アートでわいわい ・青少年ボランティアセミナー ・ボランティアフェスタ2025 ・親子deアート



山青グラフィティ

(左) 良い天気の日研修室で講師を待つひと時。手前の調理台を見ながら話をしていたのである。
(右) この当時は、調理台に関心を持つのはやはり女性。最新の大型キッチンセットにモミクチャになりながら目を注ぐ。(1967年記録メモより)